

平成29年度児童の学力向上に向けた取組

白石市立福岡小学校

1 平成28年度の課題

- (1) 「適切な課題の設定」, 「学級全体で問題解決に向かう集団づくり」, 研究テーマ「かかわり合いながら, 豊かに表現することのできる児童の育成」の充実を図った教員の指導力向上。
- (2) 家庭学習等の児童の学習習慣の形成, 及び, 豊かな読書習慣の形成。
- (3) 学力調査の結果から目標値に対する正答率が下回っている学年と観点別正答率の把握。

2 目標

☆「学力向上に係る重点目標」

- ・国語科において, 自分の思いや考えを表現する力を身に付けさせる指導法を工夫する。
- ・算数科において, 既習事項を生かし, 課題を解決する力を高めるための指導の工夫を図る。

□成果目標

- ・国語, 算数科の学力調査の平均正答率が設定されている目標値に到達するようにする。目標値を大幅に下回る観点別正答率に関しては, 次の学力調査の正答率を+3%を目標とする。
- ・家庭学習の提出を100%達成できるようにする。

◇活動目標

- ・「豊かに表現する力」を高めるために, 「教材を深く学ぶためのかかわり合い, 練り合いの工夫」と「自分の思いや考えをもたせるための指導の工夫」の2つの視点から手立てを講じ, 全学級で年1回, 国語科の研究授業を行う。(学力向上対策① 教員の教科指導力の向上)
- ・「学習の約束」による学習規律の確立, 及び「家庭学習の手引き」による主体的な学習の取組を進め, 学習習慣の形成を図る。(学力向上対策② 児童の学習習慣の形成・学ぶ意欲の形成)
- ・算数科において, 基礎・基本の定着と活用力を育むため, 少人数を基本とした授業実践を行う。(学力向上対策③ 教育環境基盤の充実)

3 目標達成に向けた具体的な取組

(1) 教員の教科指導力の向上

①深く学ぶためのかかわり合い, 練り合いの工夫

- ・自分の言葉で話せる児童を目指し, 学年段階に応じた伝え合う具体的な指導を行っていく。
- ・表現力向上のため, 発表の機会の設定や, 掲示物の工夫, 読書活動の励行などを行っていく。
- ・「学力向上のための5つの提言」を生かした授業づくり, 白石市で進める「p4c」の手法を生かした授業づくりなどを目指していく。

②自分の思いや考えをもたせるための指導の工夫

- ・授業の中で言語活動の充実を図っていく。また, 国語科に関しては, 単元ごとに書き込みノートを作り, 児童の自ら学ぶ力を伸張させる。
- ・単元全体を見据えた言語活動の計画や効果的な発問の充実を図っていくため, 授業の構成や指導のあり方を国語科を中心に探っていく。

③校内研修, 校内研究の充実を図る

- ・研究組織の3つの専門部(学習習慣部・調査資料部・表現力向上部)が授業改善につながるようRPDCAサイクルでの取組を大切にしていく。

(2) 児童の学習習慣の形成・学ぶ意欲の形成

①「学習の約束」と「家庭学習の手引き」の推進と定期的なチェック

- ・書き込みノートを活かし, 授業とのつながりを意識した家庭学習の内容を工夫する。家庭との連携を図れるように, 家庭学習における音読練習の成果を校内の音読発表会や学年の朝会発表会で披露できるように場を設定する。

②望ましい生活習慣の形成

- ・年3回の「生活チェック週間」で, 自分の生活を見直し, 改善を図るきっかけを作る。児童の取組の様子や変容などを学年・学級懇談会で話題に取り上げたり, お便りで発信したりして保護者への啓発を図る。

(3) 教育環境基盤の充実

①新聞を読もうの実施(4年生以上)

- ・読売子ども新聞を定期購読し, また, 週に一回, 朝の活動時間に, 新聞記事を使った読み取りと感想をまとめる活動を行う。

②読書活動の質的・量的向上を図る

- ・図書室の環境を整備し, 児童図書や辞典等の充実を図り, 児童が読書や調べ学習をしやすい環境を整える。

③少人数指導の徹底

- ・3年生以上で単元に応じた少人数指導を行い, 基礎・基本の徹底及び活用力の向上を図る。